

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害公衆衛生セミナー・実習を実施しました（2023/12/9-10）

テーマ：スフィア（Sphere）

会場：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2023年12月9日（土）、10日（日）、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所で「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害公衆衛生セミナー・実習を実施しました。宮城県内外の医療従事者、行政職員らが、2日間で計20名受講しました。岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科、原田奈穂子教授（看護科学分野）、独立行政法人国立病院機構本部、厚生労働省DMAT事務局看護師、千島佳也子氏が講師を務めました。実習コーディネーターを務める佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が会場責任者として運営にあたりました。

今回のテーマのスフィアは、人道支援の質と説明責任の向上を目的としており、その原理は以下2つの基本理念に基づいています：①災害や紛争の影響を受けた人びとには、尊厳ある生活を営む権利があり、従って、支援を受ける権利がある、②災害や紛争による苦痛を軽減するために実行可能なあらゆる手段がつかされなくてはならない。避難所の1人あたりの居住スペースは最低3.5㎡、共用トイレは20人に最低1つなど、多くの指標が、スフィア基準として内閣府「避難所運営ガイドライン」や他の自治体避難所運営マニュアルに用いられています。受講生は西日本豪雨災害の実例を題材に、避難所で求められる解決すべき最優先課題はなにか、課題解決のためにどのようなスフィア基準を用い、どのような機関と連携し実施しなければならないかなど、核心的・具体的な課題について熱心にグループ討議・発表を行いました。スフィアハンドブックを事前に読み込んでくるなど、決して少なくない課題を課され、また丸2日間の討論の実施などみっちりとした実習ですが、受講者は研修を終え口々に、「参加して本当に良かった」「あらゆる支援者が受講すべき」と満足の言葉を述べていました。本実習受講者には、JQAN（Quality and Accountability Network Japan、支援の質とアカウンタビリティ向上ネットワーク）より修了証が発行されました。

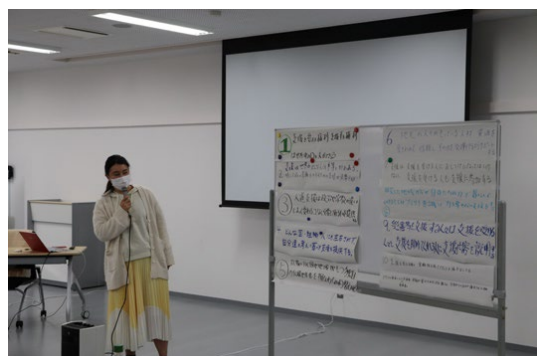
社会の災害対応力向上には、それを実践できる人材育成が不可欠です。当研究所ではこのような実践的研修会を継続して開催していきます。



人道支援のあり方について受講者と議論する
原田教授



スフィアは単なる数合わせではないことを
解説する千島看護師



討論の結果を発表する受講者



終了後に全員で記念撮影

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）